

# チャペル週報

No.20

2017.10.30 ~ 11.2

このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとします。私たちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

(ローマの信徒への手紙5章1-5節)



大学図書館屋上より

関西学院宗教センター

---

☆ チャペル・スケジュール ☆

---

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

---

10月30日(月) 神 私にとっての宗教改革⑥ Christian Triebel (神学部助教)  
経 宗教改革500年を記念して④ 加納 和寛 (神学部准教授)  
人 宗教改革記念日を覚えて 嶺 重 淑 (宗教主事)  
理 前川 裕 (宗教主事)  
聖和 聖書物語「神さまがおすきな小さい人」

---

10月31日(火) 神 宗教改革記念日礼拝 橋本 祐樹 (神学部助教)  
文 山 泰幸 (人間福祉学部教授)  
社 人権を考えるチャペル「子どもの人権と日本の貧困問題」  
村井 琢哉 (NPO法人山科醍醐こどものひろば理事長)  
法 Christian Morimoto Hermansen (宣教師)  
経 宗教改革500年を記念して⑤ 岩野 祐介 (神学部教授)  
商 東 よしみ (神学部准教授)  
国 宗教改革を記念して  
理 前川 裕 (宗教主事)  
総 音楽チャペル バロックアンサンブル  
教 梶原 直美 (宗教主事)

---

11月1日(水) 神 金 潤 貞 (神学研究科M1)  
社 「働く」って何だろう?① 打樋 啓史 (宗教主事)  
法 大宮 有博 (宗教主事)  
経 聖徒の日を迎えて 舟木 讓 (宗教主事)  
人 小西 砂千夫 (人間福祉学部教授)  
国 平林 孝裕 (宗教主事)  
理 前川 裕 (宗教主事)  
総 村瀬 義史 (宗教主事)  
教 音楽チャペル 聖歌隊

---

11月2日(木) 聖和 施設実習・児童館実習で学んだこと

---

## ルター・神秘主義・おのずから

土井健司

ルターの信仰義認論の底には、神秘思想がある。彼の『キリスト者の自由』（岩波文庫）を読み、あらためてそのように思った。周知のとおりこの著作は1520年に発表されたもので、宗教改革三大文書のひとつに数えられる。一般に信仰義認といわれるルターの思想は、ルターの時代からしばしば誤解されてきた。曰く「信仰さえあれば救われるのだから、何もしなくてもよい」と。字面だけならその通りなのだが、しかし大抵の場合このように言う人に信仰はない。「信ずれば救われる」というわけだが、では一体信じるというのはどういうことか。ルターによれば、信仰とは信頼であり、信頼とはイエスへの信頼である。十字架のイエスを信頼する、これこそが信仰だという。

この関連でルターの次の一文が目にとまった。「あたかも鉄が火に投げ込まれ焔と一つになって焔のように赤熱するのと同じように、たましいも言の有するものを言から受けとる」（21頁）。「言」とはヨハネ福音書冒頭にあるようにイエス・キリストのことを指すが、ここでルターはイエスとたましいとの一致、合一のことを述べる。この赤熱の焔と鉄の合一の比喩は、古くは3世紀のオリゲネスに見られ、ドイツ神秘主義など古典的なものである。ルターはこのようなキリストとたましいとの一致を視野に入れて、信仰義認を説くのである。そして一致しているのであるから、「私」の行為はイエスにつながるといふ。かくして善行が働きだされる。もっともその一致は常に危機にさらされており、安定したものではない。だからこそ信仰における歩み、鍛錬、前進が説かれることになる。

ところで、一度ちゃんと読んでみたい本のひとつに、竹内整一氏の『「おのずから」と「みずから」—日本思想の基層』がある。たとえば「みずから」は決断せずに「おのずから」まともっていくのを待つ、といった非主体的な傾向が日本社会にはみられる。この点ではあまりよい意味ではないのだが、しかし信仰義認と善行の関係を考えるなら、この「おのずから」が適しているように思った。決して「みずから」と傲慢になるのではなく、信仰のうちに歩みつつ「おのずから」善行が働きだされていく、そのように解釈することもできるのではないか。

宗教改革500年にあたり、ルターの思想をあらためて考えてみたい。

（神学部教授）

## ●関西学院 宗教改革500年記念礼拝 “Ein feste Burg ist unser Gott”

1517年10月31日、ドイツの修道士マルティン・ルターがヴィッテンベルク城門に、教皇にむけて95箇条の質問状を公開した。これをきっかけとして西欧キリスト教に新たな動きが生まれ、ルターたちは「プロテスタント」(抗議する者)と呼ばれ、それまで支配的であったカトリック教会から、独自の「プロテスタント」キリスト教が成立することとなった。関西学院もまたプロテスタントの立場に基づくキリスト教主義によって立つものであり、本年その500年を特に覚えて、記念の礼拝を守ります(田淵院長)。

と き:2017年10月31日(火) 17:00~18:30

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

内 容:メッセージ「かみはわがやぐら」 田淵 結(院長)

演奏「バッハ／カンタータ第80番 全曲」ほか

主 催:関西学院

## ●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローチタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。(17:50~18:20 1405教室)

11月主題:キリスト教と文化

11月2日(木) 嶺重 淑(大学宗教主事)

11月9日(木) 舟木 讓(宗教総主事)

11月16日(木) Jeffrey Mensendiek(宗教センター宗教主事)

11月30日(木) 舟木 讓(宗教総主事)

## ●第210回ランバス演奏会 クアクレとヴァイオリンによる「ラトビア伝統音楽の調べ」

ラトビア人は別名「歌う民」。古来より日々の生活、年中行事と冠婚葬祭、めぐる季節や美しい大地を歌で表現し伝えてきました。伝統的な民謡、大切に歌われている合唱曲を、クアクレとヴァイオリンで演奏します。

溝口明子／クアクレ 秦 進一／ヴァイオリン

と き:11月9日(木) 17:00開演

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主 催:宗教センター <入場無料>

## ●関西学院 宗教改革500年記念サロン

「デンマークと宗教改革」 講師／Christian M. Hermansen(法学部教授・宣教師)

「100年前の日本と宗教改革」 講師／岩野祐介(神学部教授)

と き:11月10日(金) 17:10~18:40

ところ:大学図書館ホール(西宮上ヶ原)

主 催:宗教活動委員会教育研究部

※申し込み不要・無料(教職員・学生・一般対象)

## ●オルガン音楽の泉 2017 Fall semester

パイプオルガンの響きに憩うお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

第23回 11月28日(火) 濱 裕子(衣笠病院教会オルガニスト)

第24回 12月6日(水) 能島亜未(本学オルガン講師)

いずれも12:50~13:20[開場12:40予定]

ところ:関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主 催:宗教センター

## ●「関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール」チケット販売のお知らせ

恒例の関西学院最大のクリスマスページェントが大阪のザ・シンフォニーホールで開催されます。参加費は宗教活動委員会を通して関連団体に献金させていただきます。

と き:12月18日(月) 17:30 開場/18:30 開始/21:00 終了予定

ところ:ザ・シンフォニーホール(大阪市北区大淀南2-3-3)

参加費(入場料):2000円 当日座席指定(16:30より座席券と交換)

チケット販売:

\*関西学院大学生協(tel.0798-53-5150)

\*チケットぴあ(tel.0570-02-9999) Pコード 345-158

\*ぴあ取扱いのコンビニエンスストア:サークルK、サンクス、セブン・イレブン

\*ザ・シンフォニーチケットセンター(ザ・シンフォニーホール内 06-6453-2333)

お問合せ:関西学院宗教センター(tel.0798-54-6018)

主催:関西学院 共催:関西学院後援会・関西学院同窓会